

「東京科学大学献体の会」会員ならびにご関係の皆さまへ

臨床解剖学分野では、以下の研究を行っております。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

研究課題名：足関節とその周囲の筋肉・靱帯に関する解剖学的研究

東京科学大学医学系倫理委員会承認番号：第 I2025-320 番

データ収集期間：研究実施許可日から 2030 年 3 月 31 日まで

研究目的：

足関節骨折は全骨折の 1 割を占め、下肢骨折の中では大腿骨近位部骨折に次いで 2 番目に多く、歩行能力の低下に直結する深刻な骨折です。その発生ピークは二峰性で、活動性の高い青壮年と、高齢女性に多くみられます。歩行能力の改善のためには手術を要することが多いですが、高齢者においては周術期合併症の発生率が 40%と、若年者の 11%よりもはるかに上回ります。足関節骨折のうち最も多いものは足関節外果骨折ですが、この骨折に対して古くから行われてきた外側プレート固定と比較して、後外側プレート固定や髄内釘固定は高齢者に対して合併症が少ないという近年の報告があり、手術件数が増加しています。新たな手術方法には新たに腱・靱帯障害のリスクがありますが、詳細はまだわかっていない部分が多くあります。私たちは、腓骨遠位端を中心とした足関節とその周囲の筋腱の関係性を明らかにし、手術における合併症を低減するための知見を集めたいと考えています。

研究の対象：

本研究で用いる解剖体は、すべて生前に「東京科学大学献体の会」に入会された方のご遺体です。その尊いご遺志に深く感謝するとともに、医学、歯学の教育ならびに研究に用いるという献体法（医学及び歯学の教育のために献体に関する法律）ならびに死体解剖保存法 of 精神を遵守して行って参ります。また、研究の実施に当たっては、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守すると共に、日本解剖学会が定めた「解剖体を用いた研究についての考え方と実施に関するガイドライン」に従って行います。

研究の内容：

本学臨床解剖学講座にて保存されている解剖体を用いて、足関節の靭帯・関節包とその周囲の筋、足関節を構成する脛骨・腓骨・距骨・踵骨の骨形態ならびにその栄養血管や支配神経を観察します。また組織標本を作製し、筋や靭帯・関節包がどのように骨に付着しているかの観察を行います。染色方法としてはHE染色に加えEVG染色、Masson染色、Toluidine Blue染色などを行います。また、骨形態の観察のため、X線撮影装置（SOFTX CMBW-2、ソフテックス社）、マイクロCT（SMX-100CT、島津製作所）を使用し、脛骨・腓骨・距骨・踵骨がどのような構造をしているかを明らかにします。この研究によって、足関節を支える筋・靭帯・関節包の構造が立体的かつ詳細にわかり、障害の原因となる構造の理解が推測できると考えています。

この研究により一定の成果がえられた場合には、その結果を国内外の学会や論文で発表しますが、写真閲覧時に匿名化を行い、解剖体の個人を特定できる情報は使用いたしません。登録解剖体の同定や照会は、登録時に発行される登録番号を用いて行います。登録にあたっては、識別番号を設定し、対応表を作成します。参照した画像等は、匿名化の後、臨床解剖学医局にて10年間厳重に保管し、研究終了後に適切に扱わせていただきます。

本研究は、JA 共済総合研究所との共同研究として行っています。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。また、共同研究契約によりJA 共済総合研究所に特段有利になることがないように運用されておりますし、学会発表や論文の公表にあたっては、資金について公表し、研究の透明化を図って参ります。またデータを二次的に利用する場合は新たな研究計画を立案し医学系倫理審査委員会で承認された後、改めてホームページ上でお知らせいたします。

なお、本研究に関してお問い合わせのある場合、下記宛先までご連絡ください。また、研究の途中であっても、解剖体の使用あるいは得られたデータの使用をお断りになる場合には直ちに本研究の対象から除外します。その場合にも故人および関係者の皆様の不利益となることは一切ありませんので、ご遠慮なくお申し出ください。

研究責任者：東京科学大学 運動器機能形態学講座 二村 昭元

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

電話：03-5803- 5390（対応可能時間帯 平日 9:00～17:00）

苦情・相談窓口：

苦情窓口：東京科学大学研究推進部 研究基盤推進課 生命倫理グループ

03-5803-4547（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）